

Monthly REPORT

| Yamagata North Rotary Club 2025-2026 |
国際ロータリー 第2800地区 山形北ロータリークラブ

Rotary
District 2800

よいことの
ために
手を取りあおう

September 2025

第2694回

第37回日本一の芋煮会
フェスティバル

そのヒストリーと今年度の案内
ゲスト卓話 / 山形商工会議所青年部

第2695回

職場訪問例会

ホテルメトロポリタン山形

山形市・ボルダー市姉妹都市
締結30周年記念式典

出逢いは宝 未来につなごう

2025~2026年度 山形北ロータリークラブ会長

Yuriko Nomura

野村百合子

大和楽 あやめ / 山形市民会館大ホール より

SINCE
1968
58th
YAMAGATA NORTH RC

2800 地区のテーマ | 良い事をしよう。地域で、世界で、未来のために
山形北ロータリークラブのテーマ | 出逢いは宝、未来につなごう

会長 / 野村百合子 | 幹事 / 岡 誠司 | 事務所 / 山形市香澄町 2-9-21 (株)メコム内 電話 090-1445-4120 FAX 642-1618

第2694回 2025年（令和7年）9月4日（木） 12：30 PM 場所：ホテルメトロポリタン山形

ゲスト卓話 第37回日本一の芋煮会フェスティバルの歴史と今年度の案内 山形商工会議所青年部 日本一の芋煮会フェスティバル実行委員会



「芋煮やろうぜ」～ Welcome to Yamagata Japan ～

第37回日本一の芋煮会フェスティバル実行委員会の五十嵐政治実行委員長より、以下の内容にて日本一の芋煮会が開催される契機となった出来事と、今年度の案内及び賛同いただけるロータリアンに対する協賛及び寄付依頼とともに、実行委員会の主要メンバーが所属する公益社団法人山形商工会議所青年部（YEG）の活動内容紹介が述べられた。「日本一の芋煮会フェスティバル」が開催されることになった契機は昭和62年頃、全国商工会議所青年部で各地のイメージについてアンケート調査を行ったところ、山形のイメージが「灰色」という結果になり、当時の青年部メンバーが「これはマズイ」ということで、何等かの形で山形の魅力を発信する必要性を感じていたところ、当時、全国商工会議所青年部全国大会が山口県下関市で開催された折、ご当地の青年部メンバーが名物の「ふぐちり鍋」を提供していたことをヒントに、山形といえば「芋煮」が相応しいのではないかとということになり、それを提供するなら「日本一

の大鍋」で提供してはどうかということで、調味料、味付け、食材の量等について試行錯誤を重ね、遂に平成元年9月3日に第一回「日本一の芋煮会フェスティバル」の開催にこぎ着け、以来、今年で37回目を数えるイベントになったとのことでした。

第37回日本一の芋煮会フェスティバル開催概要

- 開催目的 山形市の食文化、秋の芋煮会を全国に発信し、地域産業の振興と地場産業の活性化を図ることを目的とする。
- 今年度の開催テーマ 「芋煮やろうぜ」

～ Welcome to Yamagata Japan ～

- 主催 日本一の芋煮会フェスティバル協議会・山形市
- 提供予定食数 約30,000食
- 事業規模（予算ベース） 約6,000万円
- 開催日 令和7年9月14日（日）
山形市馬見ヶ崎川河畔（双月橋周辺）

President's Remarks 野村百合子会長挨拶



7月25日、職業奉仕委員会に参加いたしました。当日は職業奉仕委員会アドバイザーの伊藤三之先生にもご出席いただき、貴重なお話を伺いました。先生は「職業奉仕とは、アイデアを出し合い、実践を通じて各自の職業をより高潔に高める場である」と強調されました。また「自社の取り組みを発表し、情報交換することも職業奉仕の一つである」とも語られました。そのお話を聞き、私はセイコーグループ十代目会長・服部真二氏の例をご紹介します。セイコーは1881年に創業者・服部金太郎氏の理念「時代の一步先を行け」を掲げ発展しました。しかし近年は事業の多角化が不調に終わり、業績低迷

の時期もありました。そのなかで服部会長は、従来の「上意下達」を改め「ボトムアップ」へと転換。役員会では席次やネクタイを廃止し、若手が堂々と意見できる風土を築きました。実はこの「立場を超えて意見を交わす」考え方は、幕末の思想家・吉田松陰も松下村塾で実践していました。当時は身分制度が厳しく、武家の子は「様」、裕福な医者の子は「殿」、農家の子はそのままの呼称で呼ばれていました。しかし吉田松陰は「家柄は変えられないが、呼び名は変えられる」とし、皆を「君（くん）」と呼ぶことにしました。すると身分を超えて、志を同じくする者同士が対等に意見を交わせるようになり、活発な議論と人材育成につながったといいます。過去・現在・未来を生きる私たちですが、大切なのは「今、この瞬間をどう生きるか」です。過去の成果が咲いている今、未来のつぼみで満ちている今。私たちが日々を大切に過ごしてまいりたいと思います。



野村 彫刻

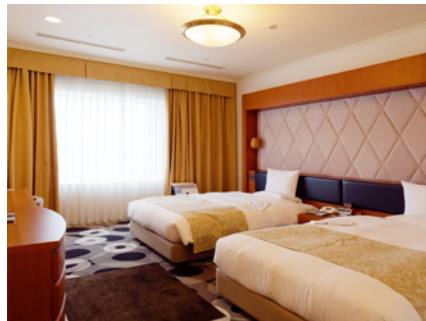
第2695回 2025年(令和7年)9月11日(木) 11:30 AM 場所: ホテルメトロポリタン山形

職場訪問例会

ホテルメトロポリタン山形



9月11日、職場訪問例会は当クラブ例会場でもあるホテルメトロポリタン山形でした。上層階にあるスイートルーム、庭園もある和洋室、チャペル、神殿など普段見ることの出来ない施設を見学しました。本川会員からは母体となる仙台ターミナルビル株式会社が手がけるホテル事業、ショッピングセンター事業、農園事業(観光農園)などの説明があった。



スイートルーム内



ブラウンと白、シックなインテリアのチャペル



本川会員の説明を聞きながらスペシャルランチをいただく



スイートルームから望む山形市街(山形駅西口方面)



厳かな雰囲気的神殿



スイートルーム内



庭園もある和洋室



第2695回 2025年(令和7年)9月13日(土) 18:00 PM 場所: ホテルメトロポリタン山形
山形市・ボルダー市姉妹都市締結30周年記念式典
 ホテルメトロポリタン山形



9月13日、山形市とボルダー市の姉妹都市締結30周年記念式典が、ホテルメトロポリタン山形にて盛大に開催された。姉妹クラブであるボルダーバレーロータリークラブからは、スティーブ・パリッシュ氏・アン・ハリス夫人ご夫妻が来訪し、当クラブからも野村百合子会長をはじめ9名のメンバーが参加した。

式典では、佐藤山形市長からアーロン・プロケット ボルダー市長へ特別名誉市民称号が贈られ、またアーロン市長から佐藤市長へは、美しいボルダーの風景を描いた絵画が贈呈された。山形交響楽団による演奏や、全員で踊った「花笠踊り」など、和やかで華やかな時間は瞬間に過ぎ、両市が今後も友情の絆をより一層深めていくことを改めて誓い合う場となった。今回の節目を機に、山形市とボルダー市の姉妹都市関係がさらに発展する中で、ボルダーバレーロータリークラブと姉妹クラブである当クラブの果たす役割の大きさを再認識する機会となった。



ボルダーバレーロータリークラブバスト会長: スティーブ・パリッシュ、アン・ハリスご夫妻

また、9月16日(月)にはそば処庄司屋にて、前会長ご夫妻との交流会が開催され、当クラブメンバー13名が参加した。野村会長から「Friendship 友好」の書がプレゼントされ、友好の想いを共有しながら楽しい宴の夜となった。



Cover Design of This Month's Issue

今月の表紙



野村百合子会長の大和楽「あやめ」山形市民会館大ホール

野村百合子会長の舞の画像を元に、上村松園が描く、舞の日本画風にリファインしました。画像レタッチと生成 AI を組み合わせて、新たなイラストレーションとして完成させました。委員会では今後もさまざまなイメージを創造して、表紙を飾ろうと思います。どうぞご期待下さい。



President's Tribute Message

追悼 千玄室氏に寄せて 山形北ロータリークラブ会長 野村百合子

先月の例会でも触れましたが、公益財団法人ロータリー日本財団理事長の千玄室氏が、去る 8 月 14 日にご逝去されました。

今年 5 月に転倒され歩行が困難となった後も、なお精神的に活動を続けられ、6 月 15 日には「けいはんな万博 2025」にて「Well-Being で前進」と題したご講演をなさったとのこと。まさに最期の時まで、自らの使命を貫かれた人生であったと拝察いたします。

千玄室氏は多くの金言を私たちに遺されました。その中でも特に心に残る「人生の本当の幸せ」という一節をご紹介します。

大切なのは、苦しみの多い人生だったとしても、
思いやりの気持ちを失わず、
他の人に手を差し伸べること。

自分の手を使って

他の人のために少しでも何かをする。

その喜びが自分に返ってくる。

その時にこそ、人生の本当の幸せを感じられるのではないのでしょうか。

この言葉は、まさにロータリーの精神そのものです。千玄室氏の生き方とお言葉を胸に、私たちもまた、思いやりと奉仕の心を持ち続けたいと願います。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



『おもしろ』 書：野村百合子／同人展 銀座鳩居堂にて

Members' Column

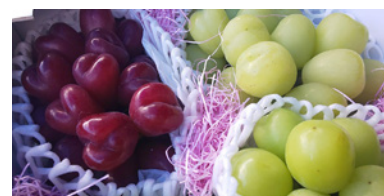
会員コラム | 私のオススメ・私の趣味・うちのペット

「ぶどう農家の友人を紹介します」 佐藤 修さん

私の友人
My Friend



朝日町でぶどう農家を営む武田貴浩さん。
朝日町出身の小野和行さん、長岡康雄さんの後輩にあたります。
栽培品種はシャインマスカット、クイーンニーナ、マイハートなどの食用品種から、ワイン用品種マスカット・ベリー A まで幅広く手がけています。特に「柏原ヴィンヤード」で育ったぶどうを使ったワインはコンクール常連で、2025 年の日本ワインコ武田さんの娘さんとうちの下の子が同級生と言うご縁で、運動会のお昼にいただいたシャインマスカットの美味しさに感動し、以来ファンに。贈答用として毎年お願いしていますが、送り先からも大変好評です。経営者としての手腕も確かで、人脈や友人関係、趣味のつながりを活かした販売は毎年完売。販路も多岐にわたります。ご興味のある方はぜひお声がけください。



ロータリアンとしてのモットー

「自分らしく あなたらしく」

「毎日を笑顔で彩ってくれる」 櫻井 靖さん

うちのペット
My little one

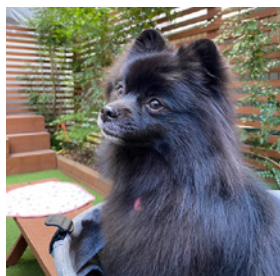


私の愛犬アーニャは、小さな身体に大きな愛を秘めた、黒ボメラニアン！
好奇心旺盛で人懐っこい性格。ふわふわでツヤツヤな毛とつぶらな瞳で、毎日を笑顔で彩ってくれる、大切な家族です。

私の癒しで元気の源です！

ロータリアンとしてのモットー

『ご縁に感謝！』はロータリーマークは歯車なので、クラブ内外のメンバーと
かみあった活動、仲間を大事にしています。



ロータリアンとしてのモットー

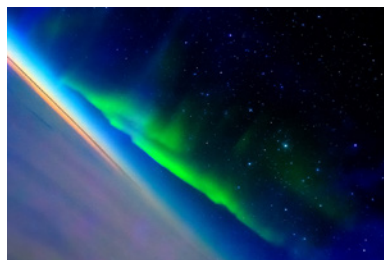
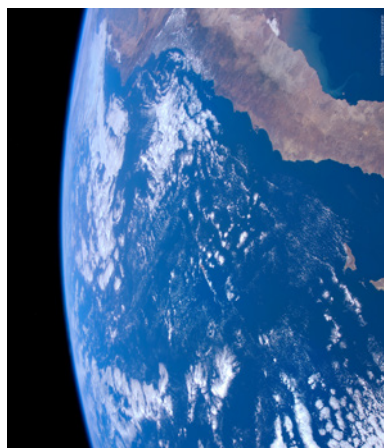
「ご縁に感謝！」

「光と風を追いかけて」 赤沼明男さん

私の趣味
My Hobby



どこまでが趣味で、どこまでが仕事なのか。
毎日、毎晩、何かを撮り続けているが、とりわけ「空」は格別だ。
青空、雲、夕焼け、星空、月、銀河——。
時には飛行機の窓から地球を狙うこともある。広角レンズの歪みを利用して、地平線を対角線に合わせると、気分はまるで宇宙飛行士だ。
シベリア上空で見た蛇行する凍った河。ヨーロッパから日本へ向かう航路で出会った見事なオーロラ。寝る間も惜しんで窓の外を見つめ続ける。
そんな折、人工衛星から地球を撮影するミッションに当選した。といっても人工衛星に乗り込むわけではない。超小型人工衛星「EYE」に撮影コマンドを送信し、得られたデータをダウンロードするという企画だ。
撮影日は 2024 年、誕生日の 9 月 18 日。地球の陸と海とリムが一望できる軌道を探し、カリフォルニア上空を選んだ。コマンド前後 5 回のシャッターのうち、幸運にも希望の一枚を手にすることができた。今では大切な宝物である。空を見上げると、そこには必ず光と風がある。
それを追いかける時間は、日常でありながら、永遠の旅のようだ。
今夜もまた、月や星座を探して、静かにレンズを向ける。



ロータリアンとしてのモットー

「悠々として、急げ」

クラブ会報アーカイブ
各例会のニコニコ BOX は
こちらの QR コードからご覧下さい

■クラブ会報アーカイブ



■ニコニコ BOX

